

# 1. 評価報告概要表

評価確定日

平成20年2月5日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1570800282
法人名	社会福祉法人 苗場福祉会
事業所名	グループホーム深雪
所在地	新潟県小千谷市ひ生乙1460番地1 (電話) 0258-82-0880

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニソンプラザ3階
訪問調査日	平成 20年 1月 13日

【情報提供票より】 19年 11月 15日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 1月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	16人	常勤 16人、非常勤 人、常勤換算 15人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階 建ての 2階 部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	17,197 円	
敷金	有( 円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,000 円	

### (4) 利用者の概要 ( 19年 11月現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	4名	要介護2		6名	
要介護3	2名	要介護4		5名	
要介護5	1名	要支援2		0名	
年齢	平均 84歳	最低	67歳	最高	96歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	財団法人小千谷総合病院、谷口医院、宮歯科医院
---------	------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小千谷市中心からほど近く、通所介護や訪問介護、居宅介護支援事業所等との複合施設「健康倶楽部中子の森」の2階が「グループホーム深雪」である。運営母体は、地域に多数の事業所を展開する社会福祉法人であり、法人内の連携や協力体制が確立している。  
ホームでは、学習療法や、1階デイサービスセンターのトレーニング器具を使用した個別の機能訓練など、様々な活動プログラムを積極的に取り入れ、利用者の希望や状態に応じて実施している。また、利用者一人ひとりの希望に応じた外出や、畑づくりや山菜の下ごしらえ、漬物づくりなどこれまでの生活歴に応じた楽しみごとなど、一人ひとりが生き生きと張り合いをもって生活できるよう支援している。  
町内会の一員として、地域の行事に参加したり、ホームの催し物に地域の方から参加してもらうなど、地域との交流にも努めている。学童保育の運営も受託しており、事業所には地域の子供たちが出入りしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の結果を前向きにとらえ、改善につなげている。特に、前回評価を通じてホームとしての具体的な理念の必要性を意識し、法人の理念をもとに、地域密着型サービスの意義を踏まえて職員全員でホーム独自の理念を作成した。介護計画作成においては、日々の関わりの中でとらえた利用者自身の言葉をもとに利用者主体の内容になるよう努め、モニタリングと見直しを定期的に行なうようにした。トイレの表示は、排泄物を連想させるあからさまなものは避け、「お手洗い」等目線の高さに設置した。居室づくりにおいても、写真や装飾品、位牌等を持ち込み、その人らしい居室となるよう支援している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域密着型サービスの評価のほか、法人内での自己評価や内部監査があり、評価の意義を管理者・職員ともに理解している。今回の自己評価も職員全員で話し合い、実施した。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月に1回、家族代表、町内会や老人会の代表、民生委員、地域包括支援センター職員等が参加し開催している。ホームの状況や行事等の報告をし、地域の情報等を教えてもらっている。19年12月の会議では、理念の説明や自己評価結果の報告をしたところ、参加者から具体的な意見が出され、運営の参考としている。また、市が運営する地域包括支援センターとは日頃から連絡を取り合い、情報収集や意見交換をしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>毎月利用者一人ひとりの様子を手紙にし、個別に家族に送付するほか、利用者の些細な変化も、面会時や電話等で報告し、意見を引き出すように努めている。家族の希望によってはメールでの情報交換を行なっている。苦情受付窓口を明示し、意見箱も設置したり、また、法人全体で利用者家族アンケートをとり、各事業所の運営に反映させている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会の一員として、回覧板を回してもらったり、近所の方の嫁入りの見送りやお通夜等に声をかけてもらっている。また、地域行事に参加したり、ホームの畑の種まきや収穫に地域の方から参加してもらったり、ホームで作った季節の食事を近所の方や交番にお裾分けすることもある。地域の消防団や自治防災組織とも協力体制ができており、ホームの避難訓練にも参加してもらっている。</p>

## 2. 評価報告書

(   部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念をもとに、平成19年1月に職員全員でホーム独自の理念を作成した。家族や地域とのつながりを持ちながら、本人がその人らしく暮らせることを支援するという理念となっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎年度、法人全体の理念をもとに、職員全員でホームの運営目標をたて、さらにそれに沿って職員一人ひとりの目標を持ち、実践に取り組んでいる。定期的に達成度の確認を行っている。また、介護計画の検討をする際などを、日々の自分たちのケアを振り返る機会としている。		
2 - 2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	開設前の説明会で地域の方にホームの意義や役割を知ってもらおう働きかけた。その後も、地域行事への参加や学童保育の運営等を通じて、利用者の生活の様子等を知ってもらえるようになってきている。平成19年12月の運営推進会議でも説明した。		家族や地域の方とも理念を共有し、ともに利用者を支える関係構築ができるよう、今後さらに、広報紙や行事等を活用して理念への理解を深める積極的な取り組みを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の一員として、回覧板を回してもらったり、近所の方の嫁入りやお通夜等に声をかけてもらっている。また、地域行事に参加したり、ホームで作った季節の食事を近所の方や交番にお裾分けすることもある。今後は、複合施設で行う配食サービスにホーム利用者も同行し、利用者一人ひとりが地域の役に立ち、地域と顔なじみになれるよう活動の幅を広げることを検討している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	地域密着型サービスの評価のほか、法人内での自己評価や内部監査があり、評価の意義を管理者・職員ともに理解している。外部評価の結果を前向きにとらえ、改善につなげている。今回の自己評価も職員全員で話し合い、実施した。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、家族代表、町内会や老人会の代表、民生委員、地域包括支援センター職員等が参加し開催している。ホームの状況や行事等の報告をし、地域の情報等を教えてもらっている。19年12月の会議では、理念の説明や自己評価結果の報告をしたところ、参加者から具体的な意見が出され、運営の参考としている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が運営する地域包括支援センターと日頃から連絡を取り合い、情報収集や意見交換をしている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃からケアを振り返ったり、虐待への理解や、虐待を発見した場合の対応等について学ぶ機会は持っていない。		法人本部で虐待対応の委員会を立ち上げ、勉強会の実施や各事業所での体制づくりを進めていく予定である。今後の取り組みに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月利用者一人ひとりの様子を手紙にし、個別に家族に送付している。異動や退職等で担当職員が変わる場合は、この手紙で伝えている。利用者の些細な変化も、面会時や電話等で報告するよう努めている。家族の希望によってはメールでの情報交換を行なっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を明示し、意見箱も設置している。面会時には声をかけて利用者の様子を伝えるよう努め、共用空間ではなく居室で話をする機会を設けるなどしている。また、法人全体で利用者家族アンケートをとり、各事業所の運営に反映させている。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	複合施設全体の会議、ホーム全体の会議、ユニット会議等があり、職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。毎年、職員一人ひとりが目標を立て、実践に向けて自らアイデアを出して取り組んでいる。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内に多数の事業所があり、異動することもあるが、一度に大勢が異動しないよう配慮している。異動があった場合は、毎月送付している家族へのお便りで伝えている。また、1ヶ月以上は引き継ぎ期間を設け、利用者へのケアが途切れぬよう配慮している。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	法人全体のマニュアル、ホーム独自のマニュアルが内容に応じて整備されている。新採用時に職員に配布されるほか、各ユニットに設置され、職員が確認している。		マニュアルの定期的な見直しを通じて現在のケアを振り返る機会にするなど、見直しと活用の仕組みづくりをさらに期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での研修体制が整備され、内部での研修会や各委員会会議での勉強会など、学習の機会は多い。外部研修にも、職員の希望や経験に応じて順番に参加できるようにしている。また、プリセプター制度により、日々の業務の中で指導を受け、学ぶ体制がある。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームが5カ所あり、定期的な会議で情報交換し、サービスの向上に取り組んでいる。また、周辺市町村のグループホームの連絡協議会や、県のグループホーム協議会などの研修会に参加している。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	悩みや相談事は上司に聞いてもらったり、月1回は飲み会や食事会を行ない、管理者・職員間のコミュニケーションを取るようにしてストレス軽減に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に本人と面談をしたり、ホームの見学をしてもらい、本人が納得した上でサービスの利用となるよう努めている。また、入居当初は家族に頻りに足を運んでもらう等、本人の不安感の軽減に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作りや山菜の下ごしらえ、畑づくりなど、利用者自身の経験や得意なことを職員が教わりながら行っている。本人のできることを役割として行ってもらい、ともに支え合いながら暮らす関係作りに努めている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	自宅への外出など、本人の希望を家族に伝え協力してもらったり、ホームの行事に家族にも参加してもらえよう働きかけている。また、面会時に家族が気を使わずゆっくりしていけるよう、利用者本人から家族にお茶を出してもらうようにするなど工夫している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中での利用者の言葉や表情から、希望や意向を把握するよう努めている。学習療法の時などを活用し、1対1で利用者と話をする機会としている。利用者の様子や職員の気づきは詳細に記録し、職員間で情報共有している。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりの中から利用者の生活歴や過去の経験等の情報を収集したり、家族に聞くなどして把握に努めている。MDS方式のアセスメントと併せて、一部センター方式のアセスメントを使用し始めたところであり、さらなる情報収集に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の関わりの中で聞かれる利用者自身の言葉をそのまま取り入れ、担当職員を中心に職員間で気づきや意見を出し合い、介護計画を作成している。家族には面会時に意向を聞くほか、本人・家族にもモニタリングに参加してもらうこともある。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとのモニタリングを行ない、半年に1回は定期的に介護計画の見直しを行なっている。状態変化がある場合は随時見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の希望にそって、買い物や理美容院、自宅への外出など支援している。市内の医療機関への受診にはホーム職員が付き添っており、また、往診医と24時間連絡がとれる体制を確保している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に受診はホーム職員が付き添い、かかりつけ医と密に連携を図っている。近隣の協力医院の医師は、24時間連絡がとれ、往診にも対応してくれている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームではターミナルケアを行なう考えであり、近隣の協力医院の医師との急変時の連携体制を確保している。個々の利用者への支援方針の話し合いはこれからの段階である。		今後、利用者本人や家族、かかりつけ医との話し合いをすすめてほしい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の誇りやプライバシーを損ねるような声かけや対応をしていない。利用者の個人記録は事務室の棚に保管している。家族等の情報が記載される面会簿は、一時的に紛失したことを機会にチェック表を使って保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の曜日や時間、その日の活動や外出等、利用者に希望を聞き、それに合わせて合わせて支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞きながら献立をたてているが、畑でとれた野菜やもらい物によっても柔軟に変更している。調理や盛りつけ、テーブル拭きや箸配り、後片付け等、一人ひとりの希望や状態に応じて参加してもらっている。食事は職員も一緒に食べている。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	基本的にトイレでの排泄を支援しており、必要な場合はチェック表を活用したり、本人の行動や表情から排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせて声かけや誘導をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日や時間帯等は特に決めず、利用者一人ひとりの希望やタイミングに合わせて支援している。拒否があっても、声かけを工夫したり、時には1階のデイサービスの浴室を借りて対応している。ホームの浴槽は位置を移動できるものであり、本人の身体状態に合わせて安心して入浴してもらうことができる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の希望に応じて学習療法やトレーニング器具を使った機能訓練を行ったり、食事の準備に参加してもらうなど、日々の活動を支援している。また、季節の郷土食づくりや漬物づくり、ぜんまい干しなど、利用者の経験を活かして一緒に行っている。畑づくりもしており、種まきや収穫の際は近所の方にも参加してもらっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買い物、畑に出かけている。季節ごとの外出やドライブ、地域行事への参加もしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者・職員は、身体拘束は行わないことを共通認識としており、拘束のないケアを実践している。日頃からケアを振り返ったり、身体拘束への理解を深める学習会等の機会は持っていない。		身体拘束を行っていない中でも、身体拘束とはどのようなものであり、なぜそれは行っていけないものなのか常に振り返ることができるよう定期的な研修や学習会の機会を設けるなどの取り組みを期待したい。
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階玄関の鍵は日中かけておらず、2階各ユニット入口は終日閉錠している。入口にさりげない音の鳴る飾りをつけたり、職員間の見守りに対応している。各ユニット間の行き来も自由にできる。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故があった場合は報告書にまとめ、リスクマネジメント委員会を中心に検討し、対応策を実施している。対応策実施後の経過を評価し、再発防止につなげている。また、法人内のそれぞれのホームで事故が起きた場合、互いにメールで情報交換し合い、自ホームでの取り組みに活用している。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	緊急時の対応マニュアルが整備され、職員に周知している。看護師を中心に緊急時対応の勉強会をしたり、AEDも設置して説明会も実施した。		緊急時対応マニュアルに沿った実技訓練や、実際にホームで起こりうる事故等実際の場面を想定した訓練も継続的に実施するよう期待したい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	地域の消防団や自治防災組織にも参加してもらい、避難訓練を実施しており、地域との協力体制ができています。夜間を想定して、実際の時間帯での訓練も実施した。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な方にはチェック表を用いて確認しながら、一人ひとりの食事・水分量を概ね把握している。本人の状態に応じた食事形態にしたり、好みのものを取り入れるなどして、十分な食事が確保できるよう支援している。献立の栄養バランスについて、法人の管理栄養士に定期的にチェックを受けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の設備や家具は家庭的なものであり、落ち着いた空間である。季節の飾り付けをしたり、地域の方から提供していただいた写真を飾り、親しみやすい雰囲気づくりをしている。気になる臭いや音もない。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、和室・洋室それぞれのタイプがあり、利用者の状態やこれまでの生活歴に応じて使用してもらっている。装飾品や位牌などを持ち込んでもらい、その人らしい居室づくりをしている。		